	シーズ名	在宅医療における生産性の研究
	氏名・所属 等	保健医療経営学部 教授 白木秀典

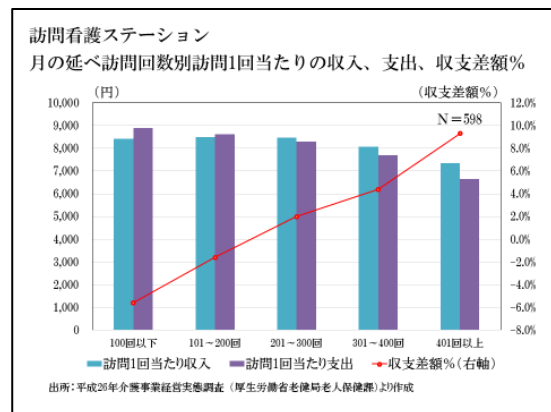
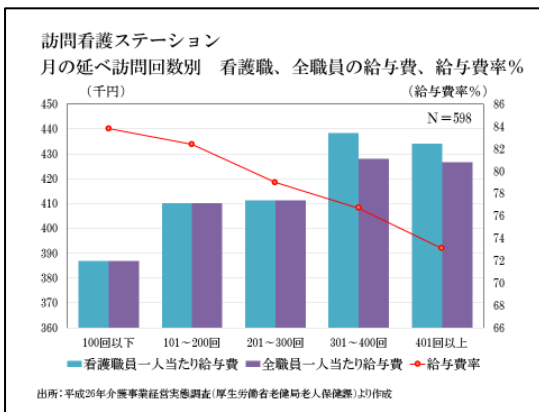
<概要>

在宅医療は入院医療を補うものとして、保護育成されてきているが、医療提供者側が患者・利用者宅を一件ずつ訪問するのが原則である以上、入院医療ほどは労務提供の効率性は高いとはいえない。この分野の比率が単純に上昇することは、産業としての医療の生産性を下げおそれがある。そこで、在宅医療についての「あるべき提供体制と生産性」を研究する。分野としては以下の3分野をカバーしている。

- ① 在宅療養支援病院 ② 在宅療養支援診療所 ③ 訪問看護ステーション

<アピールポイント>

それぞれの業態ごとの診療（介護）報酬と医業（介護）収益、生産性、経済性、事業規模を分析して、「生産性」について、実態や指標を研究している。たとえば、訪問看護ステーションについては以下のような「訪問回数」という事業規模が収益性に大きな影響を与えている。



<利用・用途・応用分野>

日本の現状のみならず、広く海外の例を研究することが、上記3つの業態における「あるべき提供体制」についての指針を提供する道筋の一つとなる。結局は、在宅医療のみならず、産業としての「日本の医療の提供体制」について、関連する研究は広がっていくことになる。

<関連する知的財産権>

<関連するURL>

保健医療経営大学紀要第6号、2014、p15~22「東京都の在宅療養支援診療所：現状とその経営課題、今後の動向」 <http://www.healthcare-m.ac.jp/hc/wp-content/uploads/2014/04/03shiraki.pdf>

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団研究助成（平成27年度後期一般）
<http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/main/jyosei.php>

<他分野に求めるニーズ>

キーワード	在宅医療、経済性、生産性、固定費
-------	------------------